

2023 年度第 2 四半期決算に係るオンライン説明会における質疑応答（2023 年 11 月 9 日開催）

※オンライン説明会開催日（2023 年 11 月 9 日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2023 年度第 2 四半期決算および通期業績見通しについて

質問	回答
通期業績予想の粗利益率（8.5％）に対して上半期決算の粗利益率（7.1％）が低下した。プラス要因とマイナス要因、およびそれぞれの数値を教えて欲しい	円安によるプラス要因が粗利益ネットで約 60 億円あった一方で、海外子会社案件（サウジアラビアおよびインドネシア）のコスト増によるマイナス要因が約 120 億円あった。このため粗利益として約 60 億円（-1.4％）の利益減少となった。
サウジアラビア子会社、およびインドネシア子会社案件の採算悪化を受けて、管理体制の強化を行ったのか。	海外子会社では地産地消の案件が多く、意思決定のスピードが求められることから、海外子会社に裁量を与えてプロジェクトを受注・遂行していた。今回の損失計上を受けて、一定程度の裁量権は海外子会社に残しつつも、現地のチェック体制を再整備するとともに、一定規模の案件については海外子会社を管理する日揮グローバルによる定期的なレビューを行う体制とした。
サウジアラビアおよびインドネシア案件で、今後さらにコスト増が発生するリスクはないのか。	現時点で考え得うるリスクに対して必要なコストとして見積もられた金額を計上している。
イスラエル情勢の影響が、現在遂行中のイラク・バスラ製油所近代化プロジェクトに悪影響を与えていないか	現時点で、イラク・バスラ製油所近代化プロジェクトをはじめ、中東で遂行中のプロジェクトの遂行に特段の影響はない。但し、危機管理上、あらゆる事態を想定した準備を本社、および現地で行っている。

通期業績予想を変更しない理由を教えてください	業績予想に使用している想定為替レートを従前の1米ドル＝133円から140円に変更し、かつ下期にチェンジオーダーの獲得やリスクコンテンツの利益化が期待できる具体的な案件があることから、通期業績予想に着地できる可能性は十分あると考えている。
下半期に期待している利益改善の金額イメージを教えてください	上半期の利益減少分の60億円から100億円程度を想定している

2. 受注・マーケット環境などについて

質問	回答
下半期の受注期待案件において、インフレ等の影響で顧客と価格が折り合わず案件が消滅するなどの可能性はあるか	資機材価格や建設コストの高騰によって、顧客予算とEPCコストが折り合わず受注交渉等に時間が必要になる可能性はある。但し、顧客には天然ガス供給を需要先と約束するなど、プロジェクトを実行しなければならない理由があり、多少の遅れはあるかもしれないが、必ず実現していくと考えている。
アルジェリア向けガス処理案件が、急遽下半期の受注期待案件として浮上した理由はなにか	本案件は、アルジェリアと欧州のある国との天然ガス供給に関する合意が最近纏まり、急遽顧客から引き合いがあったものである。かつて当社グループが遂行した案件の拡張計画であり、受注を期待している。
社長の「事業概況」でも説明があったとおり、マーケットには多くの潜在案件があると思うが、来期の受注目標イメージを教えてください	大型LNG案件のほか、水素・燃料アンモニアやSAFなどのサステナブル案件がEPCとして実現していく可能性があると感じている。今年度の受注実績にも依るが、来年度も今年度と同レベルの受注目標になる可能性はある。
これまで当社が受注を期待していたモザンビーク向けLNG	顧客が事業化に向けた様々な検討を行っており、我々も一部検討のサポー

案件（エリア４）は現在どのような状況か	トを行っている。投資判断の時期については現時点では不明である。
ニュースケール社が進めていた SMR 発電所の初号機建設計画がキャンセルになったが、どのような影響があるか。	米国では、原子力発電所が稼働してから 40 年～50 年に達すること、石炭火力が多く再エネルギー発電への転換が求められる中で、出力調整として原子力発電のニーズがあることを考えると、ニュースケール社の SMR 技術は必ず必要になってくると考えている。当社としては、引き続きニュースケール社を支援していく。

以 上